

## 2014年岡山県における感染症の患者発生状況について

### (岡山県感染症情報センター業務報告)

#### 1 はじめに

感染症発生動向調査事業では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。)及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」(平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。)に基づいて、医師等医療関係者の協力のもと、感染症の発生状況、患者情報及び病原体情報などを収集・分析し、その結果を国民や医療関係者へ提供公開していくこととしている。

本県においては、昭和50年9月から患者発生情報を収集還元していたが、患者情報と病原体情報の収集・分析・提供の一体化を図るため、要綱に基づき平成23年4月、岡山県環境保健センターに感染症情報センターが設置された。岡山県感染症情報センターでは、医師等医療関係者の協力のもと、県内(岡山市を除く。)の保健所を介して患者情報及び病原体情報を収集し、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告している。また、岡山市及び倉敷市と連携し、感染症情報の収集分析を行い、感染症の予防及びまん延防止のため、これらの情報をホームページや電子メールなどを用いて公開している。しかし、岡山県環境保健センターに感染症情報センターが設置されて以降、岡山県内の感染症発生動向調査に関するデータを総合的に取りまとめた報告は作成されなかった。今回、2014年(平成26年)岡山県における感染症の患者発生状況をまとめたので報告する。

#### 2 届出対象疾患及び調査方法

##### 2.1 届出対象疾患

対象となる感染症は感染症法により定められており、一類～四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は全数把握対象に、五類感染症は、全数把握対象と定点把握対象に区分されている(表1参照)。なお、感染症法施行令及び施行規則の改正により、平成26年年7月26日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」が指定感染症に追加され、また平成26年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」、「水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。）」、「播種性クリプトコックス症」が、全数把握対象(五類)に追加、定点把握対象の「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が、全数把握対象(五類)となった。

## 1) 全数把握疾患

全数把握疾患とは、発生数が希少、あるいは周囲への感染拡大防止を図ることが必要な感染症で、医師は該当する患者を診断したときには、最寄りの保健所へ届出なくてはならない。

## 2) 定点把握疾患

定点把握疾患とは、発生動向の把握が必要なもののうち、患者数が多数で、全数を把握する必要がない感染症で、指定された医療機関(定点)から感染症の発生状況を週単位または月単位で届出されることになっている。なお、定点医療機関は、要綱の基準に基づき選定されており、岡山県の場合、定点数は、小児科定点 54, インフルエンザ定点 84, 眼科定点 12, 性感染症定点 17, 基幹定点 5 となっている。

## 2.2 調査方法

要綱に従って各関係機関から報告された患者情報を、感染症サーベイランスシステム(以下「システム」という。)により、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告している。そのシステムにおける感染症発生動向調査の還元情報から、対象疾患について、岡山県内の発生状況を解析した。

## 2.3 調査期間

全数把握疾患(表 1-1)および月報告の定点把握疾患(表 1-2-②)については、2014 年 1 月 1 日～12 月 31 日を、週報告の定点把握疾患(表 1-2-①)については、2014 年第 1 週～52 週(2013 年 12 月 30 日～2014 年 12 月 28 日)を調査期間とする。なお、いずれの疾患も診断日を基準としている。

## 3 結果

### 3.1 全数把握疾患の届出状況(表 2, 3 参照)

#### 3.1.1 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

#### 3.1.2 二類感染症

二類感染症では、387 例の届出があり全て結核であった。類型は、患者 263 例、無症状病原体保有者 120 例、疑似症患者 4 例であった。年齢階級別では、80 歳代(30.0%)が最も多く、70 歳代(16.8%), 60 歳代(14.0%)の順となっている。無症状病原体保有者 120 例のうち 47 例が医療従事者(医師, 看護婦, 介護士, 理学療法士など)であった。集団感染については、7 月に 1 件(家族, 医療機関等), 8 月に 1 件(社会福祉施設)の計 2 件発生した。

#### 3.1.3 三類感染症

三類感染症では、71 例の届出があり全て腸管出血性大腸菌感染症であった。類型は、患者 33 例、無症状病原体保有者 38 例であった。年齢階級別では、0-9 歳 (47.9%) が全体のほぼ半数を占めており、次いで 30 歳代 (15.5%)、20 歳代 (9.9%) の順に多かった。血清群別 (重複あり) では、O157 36 例、O26 23 例、O103 5 例、O111 4 例、O121 及び O91 各 1 例、O 群別不明 2 例であり、溶血性尿毒症症候群 (HUS) の報告はなかった。

#### 3.1.4 四類感染症

○四類感染症では、7 疾患 49 例の届出があった。主な疾患については、以下のとおりである。

##### i) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は、5 月と 8 月に計 2 例の発生報告があり、2013 年に初めて患者報告がされてから、県内での発生が 4 例となった。

##### ii) デング熱

デング熱は 9 月に 1 例の届出があり、都立代々木公園において発生した国内感染事例に伴い報告された症例であった。

##### iii) レジオネラ症

レジオネラ症は 30 例の届出があり、病型はすべて肺炎型だった。年齢階級別では、60 歳代 (30.0%) が最も多く、80 歳代 (26.7%)、50 歳代 (20.0%) の順となっており、患者はすべて 40 歳以上の成人だった。感染原因・経路 (推定/重複あり) は、塵埃感染 5 例、水系感染 3 例、その他不明 25 例であった。

#### 3.1.5 五類感染症

○五類感染症では、17 疾患 134 例の届出があった。主な疾患については、以下のとおりである。

##### i) アメーバ症

アメーバ赤痢は 12 例の届出があり、30 歳代~70 歳代の男性であった。感染原因 (推定) は、経口感染 1 例、性的接触 (異性間) 1 例、その他国外河川での沐浴 1 例、不明 9 例だった。感染地域は、国内 11 例、国外 (インド) 1 例だった。

##### ii) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 3 例の届出があった。年齢階級別では、60 歳代 2 例、90 歳代 1 例だった。感染原因 (推定) は創傷感染 2 例、不明 1 例であり、診断方法は、すべて分離・同定による病原体の検出で、血清群別では、A 群 2 例、G 群 1 例であった。

##### iii) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は 21 例の届出があり、病型は AIDS 8 例、無症候性キャリア 12 例、その他 1 例であった。性別は、男性 20 例、女性 1 例で、年齢階級別では、40 歳代 (38.1%) が最も多く、30 歳代 (23.8%)、50 歳代及び 60 歳代 (14.3%) の順となっている。感染原因 (推定) は、性行為感染 18 例 (異性間 2 例、同性間 15 例、異性または同性間 1 例)、不明 3 例であった。感染地域は、国内 19 例、国外 (ロシア) 1 例、不明 1 例であった。

#### iv) 梅毒

梅毒は 21 例の届出があり、前年 (8 例) より大きく増加した。類型は、患者 15 例、無症状病原体保有者 6 例であり、性別は、男性 20 例、女 1 例であった。年齢階級別では、20 歳代及び 30 歳代 (28.6%) が最も多く、40 歳代 (19.0%)、50 歳代 (9.5%) の順となっている。感染地域 (推定) は、国内 20 例、国外 (中国) 1 例であった。

#### v) 風しん

風しんは 2 例の届出があり、全数把握対象となって以降、最も患者の発生が多かった 2013 年 (76 例) と比較して大幅に減少した。年齢階級別では、20 歳代 1 例、30 歳代 1 例で、ワクチン接種歴は、すべて 1・2 回目とも不明であった。

#### vi) 麻しん

麻しんは 6 例の届出があり、年齢階級別では、0～9 歳 2 例、10 歳代 2 例、20 歳代 2 例だった。病型は、麻しん 4 例、修飾麻しん 2 例で、ワクチン接種歴は、1・2 回目ともあり 1 例、1・2 回目ともなし 2 例、1・2 回目とも不明 3 例であった。

### 3.2 定点把握疾患の届出状況

#### 3.2.1 週報告疾患 (表 4 参照)

##### i) インフルエンザ (2013/2014 シーズン流行のまとめ)

インフルエンザは、2013 年 第 43 週にシーズン初めての患者が報告され、第 52 週に定点あたり報告数 1.53 人となり、流行期に入った。以降、急速に流行は拡大し、2014 年第 2 週に定点あたり 5.66 人となり、注意報レベルの 5 人を越えた。そして第 5 週には定点あたり 28.89 人となり、2013/2014 シーズンのピークを迎えた。第 6 週に定点あたり 21.84 人まで減少したものの、その後しばらくほぼ横ばいで推移した。第 10 週から再び減少し始め、第 21 週、第 22 週と 2 週連続して定点あたり 1 人を下まわり、インフルエンザの流行は終息した。

2013/2014 年シーズン (2013 年 9 月 2 日～2014 年 6 月 8 日)、岡山県環境保健センタ

ーで検出されたインフルエンザウイルス 122 株の検出割合は、AH1pdm09 型が 48 株 (39%) と最も多く、AH3 型が 44 株 (36%)、B 型が 30 株 (25%) (B 型のうち山形系統 24 株、ビクトリア系統 6 株) だった。AH1pdm09 型は、2011/2012 年シーズン、2012/2013 年シーズンには検出されていなかったが、今シーズンは検出最多となった。

#### ii) RS ウイルス感染症

RS ウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が 22.42 人であり、前年 (19.59 人) と比較して増加した。前年 12 月の患者が多い状態から 2014 年に入り、増減を繰り返しながら減少し、第 11 週からは散発的であった。第 35 週から徐々に増加しはじめ、第 50 週には定点あたり 2.59 人と過去 10 年間で最も多くなった。

#### iii) 手足口病

手足口病は、定点あたり累積報告数は、前年の 73.76 人から大幅に減少し 10.90 人と少なかった。

#### iv) 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、第 1 週から第 14 週までは過去 10 年間で最も多い状態で推移し、9 月頃まで流行が継続した。

### 3.2.1 月報告疾患 (表 5~7 参照)

#### 1) 性感染症定点

##### i) 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、定点あたり累積報告数が 21.29 人であり、前年 (21.82 人) とほぼ同数だった。男女別割合では、男性 23.8% 女性 76.2% と女性が多かった。

##### ii) 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が 5.65 人であり、前年 (7.35 人) より減少した。男女別割合では、男性 5.2% 女性 94.8% と女性が圧倒的に多かった。

##### iii) 尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は、定点あたり累積報告数が 4.82 人であり、前年 (4.18 人) とほぼ同数であった。男女別割合では、男性 65.9% 女性 34.1% と男性が多く、また男性の報告数が 3 年連続で増加した。

##### iv) 淋菌感染症

淋菌感染症は、定点あたり累積報告数が 8.06 人であり、前年 (7.88 人) とほぼ同数だった。男女別割合では、ほぼ同数だった。

性感染症疾患を年齢階級別で見ると、20歳～30歳代の報告が多い傾向がみられた。

## 2) 基幹定点(薬剤耐性菌感染症)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、定点あたり累積報告数は37.00人であり、前年(23.60人)より増加した。70歳以上の報告が最も多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症及び薬剤耐性アシネトバクター感染症の患者報告はなかった。

## 4 まとめ

全数把握感染症について、結核の届出数は、2012年(477例)、2013年(358例)と連続で減少していたが、2014年(387例)はわずかに増加した。年齢別では、70歳以上の高齢者が多く報告されている。2014年8月には約70年ぶりにデング熱の国内感染患者発生が確認されたが、県内でも1例の届出があった。この届出例でも感染場所と推定された代々木公園への訪問歴があったことから、国内感染が疑われた。梅毒は、2007～2013年の届出数は年間5～9例だったが、2014年は21例と急増した。全国の梅毒患者の報告総数も、2011年から増加傾向にあるため、岡山県でも今後の発生動向に注意が必要である。

定点把握感染症に関して、2013/2014年シーズンのインフルエンザは、流行期間が23週間と前年と同様であった。定点あたり累積報告数は2012/2013シーズンより増加した。2013/2014シーズンは、定点あたり報告数が30人を超えることはなかったものの、流行のピークを迎えた後、定点あたり報告数の減少が緩やかであったことが特徴であった。RSウイルスは、前年同様8月下旬から患者報告数が増加し始め、定点あたり累積報告数が、過去10年間で最も多くなった。

今後も引き続きデータ収集・解析に努め、全国での感染症の発生動向にも注意を払いつつ、県民の健康を守るための一助として感染症情報を広く発信していきたい。

表1 感染症法に基づく届出対象疾患(2014年)

1. 全数把握疾患:全ての医師が、全ての患者発生について届出を行う感染症

<p>【 一類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) エボラ出血熱 (2) クリア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱</p>
<p>【 二類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)</p> <p>(5) 鳥インフルエンザ(H5N1)</p>
<p>【 三類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1)コレラ (2)細菌性赤痢 (3)腸管出血性大腸菌感染症 (4)腸チフス (5)パラチフス</p>
<p>【 四類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) E型肝炎 (2) ウエストナイル熱 (3) A型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) 黄熱 (6) オウム病 (7) オムスク出血熱 (8) 回帰熱 (9) キャサナル森林病 (10) Q熱 (11) 狂犬病 (12) コクシジオイデス症 (13) サル痘 (14) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る) (15) 腎症候性出血熱 (16) 西部ウマ脳炎 (17) ダニ媒介脳炎 (18) 炭疽 (19) チクングニア熱 (20) つつが虫病 (21) デング熱 (22) 東部ウマ脳炎 (23) 鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く) (24) ニパウイルス感染症 (25) 日本紅斑熱 (26) 日本脳炎 (27) ハンタウイルス肺炎候群 (28) Bウイルス病 (29) 鼻疽 (30) ブルセラ症 (31) ベネズエラウマ脳炎 (32) ヘンドラウイルス感染症 (33) 発しんチフス (34) ボツリヌス症 (35) マラリア (36) 野兎病 (37) ライム病 (38) リッサウイルス感染症 (39) リフトバレー熱 (40) 類鼻疽 (41) レジオネラ症 (42) レプトスピラ症 (43) ロッキー山紅斑熱</p>
<p>【 五類感染症の一部 】 7日以内に届出(麻しん・風しんはできるだけ早く)</p> <p>(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く) (3) カルニベネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ** (4) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) (5) クリプトスポリジウム症 (6) クロイツフェルト・ヤコブ病 (7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (8) 後天性免疫不全症候群 (9) ジアルジア症 (10) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (11) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (12) 侵襲性肺炎球菌感染症 (12) 水痘(入院例に限る) ** (13) 先天性風しん症候群 (14) 梅毒 (15) 播種性クリプトコックス症 ** (16) 破傷風 (17) パイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (18) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (19) 風しん (20) 麻しん (21) 薬剤耐性アシネトバクター感染症 **</p>
<p>【 指定感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1)鳥インフルエンザ(H7N9) (2)中東呼吸器症候群(病原体がベータウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る) *</p>

2. 定点把握疾患(五類感染症):指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症

①週単位報告

<p>【 小児科定点 】</p> <p>(1) RSウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) 百日咳 (10) ヘルパンギーナ (11) 流行性耳下腺炎</p>
<p>【 インフルエンザ定点 】</p> <p>(1)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)</p>
<p>【 眼科定点 】</p> <p>(1)急性出血性結膜炎 (2)流行性角結膜炎</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る) (2) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (3) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く) (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎</p>

②月単位報告

<p>【 性感染症定点 】</p> <p>(1)性器クラミジア感染症 (2)性器ヘルペスウイルス感染症 (3)尖圭コンジローマ (4)淋菌感染症</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性アシネトバクター感染症***</p> <p>(4) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

\* 2014年7月26日より追加

\*\* 2014年9月19日より追加

\*\*\*2014年9月19日から全数把握感染症に変更

表2 全数把握疾患 月別患者発生状況

2014年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	痘	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ペス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	結核	387	34	20	23	31	31	34	33	38	41	39	28	35
三類感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	71	2	-	1	1	6	5	30	14	2	8	-	2
四類感染症	腸チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	E型肝炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	8	-	1	2	-	2	1	-	-	-	1	-	1
	エキノкокス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オウムムチ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	キヤサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	2	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ツツガムシ病	2	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
	デング熱	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	4	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	野兎病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
レジオネラ症	30	4	-	1	2	2	4	4	2	4	3	1	3	
レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ロッキーマン山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
五類感染症	アメーバ赤痢	12	1	-	-	1	-	3	-	2	1	1	1	2
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	7	1	1	-	1	1	1	-	1	1	-	-	-
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* <sup>2</sup>	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	3	3
	急性脳炎* <sup>1</sup>	9	1	3	-	1	-	1	2	-	1	-	-	-
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
	後天性免疫不全症候群	21	-	1	1	2	-	5	3	3	3	1	2	-
	ジアリジア症	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	27	3	2	2	2	3	3	2	1	1	1	-	7
	水痘(入院例)* <sup>2</sup>	6	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	2
	先天性風しん症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	梅毒	21	2	-	1	2	1	-	5	1	1	2	4	2
	播種性クリプトコックス症* <sup>2</sup>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	破傷風	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
風しん	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
麻疹	6	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
薬剤耐性アシネトバクター感染症* <sup>3</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

\*<sup>1</sup> ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く  
 \*<sup>2</sup> 2014年9月19日より、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘(入院例に限る。)、播種性クリプトコックス症が全数把握感染症に追加。  
 \*<sup>3</sup> 2014年9月19日より、薬剤耐性アシネトバクター感染症は、定点把握感染症(月報告)から全数把握感染症に変更



表3 全数把握疾患 年齢別患者発生状況

2014年

		総数	0～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳～
一類 感染症	エボラ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	痘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	南米出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ペス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マールブルグ病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二類 感染症	ラッサ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	急性灰白髄炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ジフテリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三類 感染症	結核	387	10	3	26	27	28	32	54	65	116	26
	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四類 感染症	コレラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細菌性赤痢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五類 感染症	腸管出血性大腸菌感染症	71	34	3	7	11	5	3	6	1	1	—
	腸チフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	パラチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	E型肝炎	2	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—
	ウエストナイル熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A型肝炎	8	—	—	1	1	—	1	4	1	—	—
	エキノкокス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	黄熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オウムム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オムスク出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	回帰	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	キヤサヌル森林病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	Q熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	狂犬病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コクシジオイデス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	サル痘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症熱性血小板減少症候群	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—
	腎症候性出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ダニ媒介脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	炭疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	チクングニア熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ツツガムシ病	2	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
	デング熱	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ニパウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	日本紅斑熱	4	—	—	—	1	—	—	2	1	—	—
	日本脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	Bウイルス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ブルセララ症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発しんチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ボツリヌス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マラリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	野兎病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ライム病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
類鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
レジオネラ症	30	—	—	—	—	2	6	9	4	8	1	
レプトスピラ症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ロッキーマン山紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
五類 感染症	アメーバ赤痢	12	—	—	—	3	1	4	3	1	—	—
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	7	—	—	2	2	1	1	—	1	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* <sup>2</sup>	12	—	—	—	—	—	—	2	5	4	1
	急性脳炎* <sup>1</sup>	9	4	1	1	—	1	—	2	—	—	—
	クリプトスポリジウム症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1
	後天性免疫不全症候群	21	—	—	2	5	8	3	3	—	—	—
	ジアルジア症	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—
	侵襲性髄膜炎菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症	27	5	1	1	1	1	4	10	3	—	1
	水痘(入院例)* <sup>2</sup>	6	3	—	1	1	—	—	—	—	1	—
	先天性風しん症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	梅毒	21	—	1	6	6	4	2	1	—	1	—
	播種性クリプトコックス症* <sup>2</sup>	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	破傷風	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—
	風しん	2	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
麻疹	6	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—	
薬剤耐性アシネトバクター感染症* <sup>3</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

\*<sup>1</sup> ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く\*<sup>2</sup> 2014年9月19日より、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘(入院例に限る。)、播種性クリプトコックス症が全数把握感染症に追加。\*<sup>3</sup> 2014年9月19日より、薬剤耐性アシネトバクター感染症は、定点把握感染症(月報告)から全数把握感染症に変更

表4 定点把握対象疾患の発生状況 定点あたり報告数、週別(小児科・インフルエンザ定点、眼科定点、基幹定点) 2014年

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
総数	270.67	22.42	21.98	49.27	423.98	42.36	10.89	1.13	21.03	0.30	20.15	7.51	1.08	24.00	1.60	2.00	3.60	1.60	7.60
1週	1.87	0.57	0.30	0.28	9.13	1.77	0.06	—	0.13	—	0.04	0.06	—	0.08	—	—	—	—	—
2週	5.66	0.68	0.47	0.92	10.70	1.92	0.13	0.02	0.30	—	—	0.08	0.08	0.75	—	—	—	—	—
3週	11.72	0.64	0.36	0.83	10.38	0.83	0.06	0.02	0.45	—	—	0.02	0.08	0.50	—	—	—	—	—
4週	24.73	0.28	0.45	0.83	10.36	1.45	0.06	0.04	0.40	—	—	0.08	0.08	0.83	—	—	—	—	0.20
5週	28.89	0.19	0.43	1.13	9.79	0.62	0.02	—	0.25	—	0.02	0.08	—	0.58	—	—	—	—	0.20
6週	21.84	0.36	0.49	0.87	6.79	0.91	—	0.02	0.36	0.02	—	0.06	—	0.42	0.40	0.80	1.00	0.80	0.20
7週	21.53	0.36	0.66	0.81	6.62	1.19	0.02	—	0.26	—	0.02	0.09	—	0.33	—	—	—	—	0.20
8週	21.94	0.21	0.55	1.62	7.30	0.96	—	0.02	0.32	—	—	0.04	—	0.50	—	—	—	—	0.20
9週	23.02	0.25	0.51	1.36	7.96	0.75	0.02	0.02	0.26	—	—	0.08	—	1.08	—	—	—	—	0.20
10週	17.76	0.15	0.72	1.33	8.59	0.74	0.02	0.06	0.28	—	—	0.04	—	0.58	—	—	0.40	—	—
11週	17.73	0.04	0.37	0.69	9.15	0.65	—	0.02	0.39	—	0.06	0.06	0.08	0.92	0.20	—	0.20	0.20	0.60
12週	14.25	0.06	0.46	0.81	10.04	0.76	—	—	0.43	—	0.02	0.11	0.08	0.50	—	—	—	0.20	0.40
13週	9.48	0.07	0.78	0.87	10.24	0.81	0.04	0.04	0.19	—	0.02	0.13	0.08	1.17	—	—	0.40	—	0.20
14週	4.57	0.06	0.56	0.72	7.85	0.83	0.02	0.02	0.44	0.02	0.02	0.22	—	0.33	—	—	—	—	—
15週	3.35	0.04	0.33	0.94	9.65	0.93	—	0.07	0.31	—	0.11	0.06	—	0.58	0.40	—	—	—	0.20
16週	3.79	0.04	0.30	0.72	14.31	0.67	—	0.02	0.39	—	0.07	0.15	—	0.58	—	—	—	—	0.40
17週	3.68	0.04	0.39	1.02	13.80	0.69	—	0.02	0.48	—	0.07	0.06	0.08	0.25	—	—	—	—	0.80
18週	3.54	0.06	0.54	1.00	12.15	0.69	0.06	—	0.31	—	0.07	0.13	—	1.00	—	—	—	—	0.80
19週	1.82	—	0.46	0.67	11.54	0.57	0.02	0.02	0.39	—	0.07	0.09	0.08	0.42	—	—	0.20	—	1.20
20週	1.54	0.02	0.52	1.22	11.76	0.52	0.02	—	0.46	—	0.06	0.17	—	0.50	—	—	—	—	0.80
21週	0.73	—	0.56	1.56	11.00	0.67	0.07	—	0.54	—	0.19	0.15	0.08	0.17	—	—	—	—	—
22週	0.36	0.04	0.70	1.48	10.63	0.67	0.07	0.02	0.48	0.04	0.11	0.11	—	0.17	—	0.40	0.20	0.20	0.60
23週	0.18	—	0.74	1.70	7.67	1.22	0.11	0.07	0.59	—	0.44	0.07	—	1.08	—	—	—	—	0.20
24週	0.01	0.02	0.76	1.31	6.50	1.26	0.06	—	0.46	0.02	0.56	0.20	—	0.58	—	—	—	—	—
25週	0.01	0.04	0.81	1.24	5.46	1.19	0.07	—	0.61	0.00	0.70	0.22	—	0.25	0.40	—	—	—	—
26週	—	—	0.65	1.13	5.44	0.87	0.20	—	0.54	0.04	0.67	0.28	—	0.17	—	—	—	—	—
27週	—	—	0.76	1.20	5.69	0.78	0.15	0.04	0.57	0.02	1.02	0.30	0.08	0.75	—	—	—	—	—
28週	0.05	—	0.46	1.00	4.72	0.57	0.20	0.06	0.37	0.02	1.22	0.30	—	0.33	—	0.20	—	0.20	—
29週	0.04	—	0.24	0.81	5.93	0.65	0.33	—	0.37	—	2.48	0.31	—	0.58	—	—	—	—	—
30週	—	—	0.46	0.54	5.43	0.57	0.22	0.02	0.54	0.02	1.70	0.11	—	0.58	—	—	0.20	—	—
31週	—	0.02	0.37	0.61	4.69	0.54	0.17	—	0.43	—	2.39	0.17	—	0.25	—	0.20	—	—	—
32週	—	—	0.59	0.33	4.80	0.59	0.26	—	0.37	0.02	1.43	0.19	—	0.33	—	—	—	—	—
33週	—	—	0.22	0.43	4.43	0.46	0.48	0.02	0.41	—	1.35	0.15	—	0.00	—	—	—	—	—
34週	—	—	0.37	0.85	5.35	0.50	0.35	0.02	0.46	0.02	1.13	0.11	0.08	0.83	—	—	—	—	—
35週	0.06	0.07	0.20	0.44	6.41	0.31	0.59	0.02	0.67	0.02	1.19	0.24	—	0.50	—	—	—	—	—
36週	0.02	0.09	0.30	0.83	5.56	0.52	0.46	—	0.52	—	0.83	0.11	—	1.25	—	—	—	—	—
37週	0.01	0.48	0.57	0.24	4.39	0.35	0.46	—	0.46	—	0.72	0.24	—	0.50	—	—	—	—	—
38週	—	0.46	0.28	0.69	4.57	0.44	0.31	—	0.39	—	0.19	0.19	—	0.58	—	—	0.20	—	0.20
39週	0.02	0.39	0.26	0.98	4.93	0.31	0.26	—	0.44	—	0.24	0.06	—	0.25	—	—	—	—	—
40週	0.05	0.48	0.13	0.70	4.44	0.50	0.41	—	0.30	0.02	0.19	0.31	—	0.42	—	—	—	—	—
41週	0.11	1.00	0.09	0.65	3.89	0.39	0.31	0.02	0.48	—	0.13	0.19	—	0.42	—	—	—	—	—
42週	0.02	0.46	0.15	0.61	4.54	0.57	0.13	—	0.44	—	0.11	0.24	0.08	0.08	—	—	—	—	—
43週	0.07	0.81	0.17	0.98	5.41	0.50	0.17	0.04	0.37	—	0.04	0.24	—	0.25	—	—	—	—	—
44週	0.05	0.43	0.20	0.61	5.70	0.65	0.30	0.02	0.48	—	0.06	0.15	—	0.25	—	—	0.20	—	—
45週	0.11	0.83	0.20	0.72	6.52	1.13	0.24	0.02	0.33	—	0.09	0.07	—	0.17	—	0.20	—	—	—
46週	0.06	1.24	0.28	0.70	7.61	1.00	0.33	—	0.33	—	0.04	0.19	—	0.17	—	—	0.20	—	—
47週	0.24	1.54	0.13	1.17	9.70	1.09	0.54	0.07	0.46	—	0.06	0.15	—	0.33	—	0.20	—	—	—
48週	0.44	1.56	0.22	1.33	11.02	1.17	0.50	0.04	0.44	0.02	0.09	0.15	—	0.17	—	—	—	—	—
49週	1.24	2.13	0.43	1.46	13.06	1.17	0.63	0.02	0.30	—	0.02	0.09	0.08	0.25	0.20	—	0.20	—	—
50週	2.76	2.59	0.30	1.70	13.19	1.02	0.52	0.09	0.35	—	0.04	0.13	—	0.17	—	—	0.20	—	—
51週	6.01	2.09	0.33	1.65	14.46	1.22	0.89	0.02	0.39	—	0.04	0.17	—	0.08	—	—	—	—	—
52週	15.32	1.56	0.39	0.93	12.76	1.20	0.56	0.15	0.31	0.02	0.06	0.17	—	0.17	—	—	—	—	—



